

NPO法人 海外に子ども用車椅子を送る会

当会は、2004年10月にマレーシアのスパスティック養護センターに16台の子ども用車いすを寄贈して以来、2007年12月までに7ヶ国(マレーシア、韓国、ベトナム、インドネシア、ブルガリア、タンザニア、ネパール)に11回、673台を寄贈いたしました。

いずれの国におきましても、子ども用車いすの支援は初めて、高価な子ども用車いすを国内で入手することは不可能という状況で、引き続いての支援を要請されております。

アジア、アフリカ、南米には国内で子ども用車いすなど見たこともないという国が多数あり、それらの国では多くの肢体不自由な子どもたちが日光浴すらできない生活を強いられています。

私たちはそれに対して極めて微力ではありますが、一人でも多くの肢体不自由な子ども達に動く自由の素晴らしさを持っていただくために、そして寄贈したそれぞれの国で障害者福祉充実の機運が起きる一粒の種になればと、がんばって活動をしてまいりますので、みなさまのご支援をお願いいたします。

子ども用車いす寄贈その後「ベトナム」2006年11月102台寄贈

2006年11月にベトナム国際青年協力推進センターに寄贈した102台の車いすのうち24台を受け取ったハノイ高齢者および身体障害児センターの管理者から、お礼状と車いすに乗って喜ぶ子ども達の写真をいただきました。

ハノイ身体不自由児養護センター管理者からのお礼状

当センターはハノイ市の労働者、病弱者、社会事業支援部門の傘下の養護センターでタハイ地方にあり、ハノイ市の身寄りのない高齢者と身体障害孤児を受け入れ医療と心理医療などを行なっています。

現在304名おり、内124名が孤児で180名が身体障害児と身寄りのない高齢者です。

昨年12月4日には名誉なことに私どもの身体障害児に青年同盟中央委員会と青年友好計画同窓会を通じて皆さまからの贈り物である24台の車いすを受け取りました。

この贈り物によって子ども達は友達と話したり遊んだりする機会が増えて大変役にたっております。

今彼らは日本人からの思いやりと愛情にひたり幸せいっぱいです。

これまでは一箇所に一日中横たわっていたのですが、今ではセンターの職員の手助けを受け車いすで動き回って健常者の友達との活動に参加出来るのです。彼らの夢がかなったことに重ねてお礼を申し上げます。

私のセンターの子ども達に代わって、皆さまからの貴重な支援と贈り物に対して心から感謝の意を表します。

私どもの社会で恵まれない不幸な人々の境遇を皆さまが分かち合っていたいただいたことは皆さまの温かい気持ちの表れです。

ボランティアの方々、車いすを寄贈していただいた方々にお礼を申し上げるとともに、皆さま方の健康と幸運と成功をお祈りいたします。

私どもは今後とも引き続き皆さま方のご支援をいただけることを心から期待いたしております。

グエン トロン ファム



活動方針「子ども用車いす寄贈に特化した活動」

当会では、従来社会福祉協議会、介護老人健康施設などから不要になった車いす(大人用)を引き取ってほしいという要請があった場合お引受けしてまいりました。

しかし、海外の国々に大人用車いすの寄贈を打診してもつぎの理由から受入先が見つけにくいのが実状です。

①各国では、他の国から子ども用車いすの寄贈を受けることはほとんどなく、医療機器として非常に不足している子ども用車いすに対して強い寄贈要請が当会に寄せられている。

②大人用車いすは欧米諸国からの寄贈があり、かつ安価な現地製もあることからある程度充足できる。

幸いにも在庫分についてはベトナムに寄贈できることになりましたが、社会福祉協議会などから提供の大人用は使いつけ込んだものが多く、修理費がかさむうえに寄贈先も見つけにくいことから、今後は活動開始時の原点に立ち返り、子ども用車いす寄贈に特化した活動をいたします。

■ご寄付をいただいた皆さま(順不同、敬称略) ご協力いただきありがとうございます(2007年1月1日~12月31日分)

榎本みつ枝	松永郁子	松戸磨須美	山田勲	竹村節子	藤本昇史	藤井明子
平川寛之	後藤さと	伊東琢	志茂鉄弘	本橋礼子	新井由美子	小平晋子
田村利光	藤田ゆり子	小山光彦	大槻正敏	田巻豊子	志村富江	青木盈子
田中八重子	新井臣典	平岡房江	小町武夫	岸野絹代	木村侃丘	田辺修
佐藤睦子	星野正男	奥隅和美	井上雅樹	内山徳之	大芝美智子	吉田政昭・孝子
比留間正風	川村征男	大泉寛	大森恵司	田中卓男	坂下浩行	岡積勉
西手正光	サカグチタダシ	佐久間喜美子	大日方真	松島潤二	中野献一・閑子	山本雄一
サカイトシヤ	ニシヤマヨシコ	ヤオコーミノル	サクマクニヨ	近藤真紀	長谷川安年	丹野清武
オートリード株式会社		ウシタマサシ	本保 晴恵	和(なごみ 代表 三代川清子)		岡田弘義
社会福祉法人桜栄会		国際ソロプチミストあきる野		丸美建設株式会社		青梅佐藤財団
MDRT (Million Dollar Round Table) USA本部			MDRT 日本会多摩山梨ブロック			東京福生ライオンズクラブ
エキスパートアライアンス株式会社			福生ブルースフェスティバル実行委員会			

■2007年度にご支援をいただいた企業、団体、個人(順不同、敬称略) ご支援ありがとうございます

株式会社社交運社	多摩包装工業株式会社	西多摩運送株式会社	石川酒造株式会社	松下電器産業株式会社
MDRT 日本会多摩山梨ブロック		日本財団	青梅佐藤財団	日本郵船株式会社
中野献一(文化庁登録有形文化財「蔵館」館主)	株式会社大島商事		和(なごみ 代表 三代川清子)	
青木貞夫(プラム〇アド代表)	群素水名(ギターリスト)		ふっさボランティア・市民活動センター	
福原千春(ピアニスト)	水谷美月(ヴァイオリニスト)		立川ダンボール工業株式会社	丸美建設株式会社
高橋多佳子(ピアニスト)	エキスパートアライアンス株式会社		日本ボーイスカウト東京連盟多摩地区あきる野第1団	

2007年寄贈実績

■ブルガリア共和国健康保健省 112台寄贈

2007年5月11日に大井ふ頭を出港したブルガリア健康保健省へ寄贈の車いすは6月27日にブルガリアに到着、その贈呈式が7月27日に首都ソフィア市内の小児病治療専門病院において健康保健大臣、福井日本大使、贈呈式出席のために一時帰国した大関琴欧洲関、駐日全権大使夫人など多数の人が出席して行われ、事前に連絡をいただいていた10数か所の小児病院、小児養護センターに健康保健省より贈られました。

なお、当寄贈にあたっては日本郵船株式会社様が大井ふ頭からブルガリアまで車いすを無償で輸送していただきました。

ブルガリアへの車いす寄贈経緯

アムネスティインターナショナルが障害児施設の劣悪な状況を示す報告書を発表、その結果2004年にいくつかの施設が閉鎖に追い込まれました。

しかし閉鎖されなかった施設においても、その懸念すべき状況は現在も続いています。(NGO「世界の医療団」発表)

このような状況にあるなか複数のブルガリア関係者から子ども用車いすの寄贈要請を受け、駐日ブルガリア大使館、大関琴欧洲関、日本郵船株式会社様などのご協力を得て寄贈が実現しました。



ブルガリア大使館からいただいた感謝状

■ネパール 24台寄贈

ネパールについては、かねてより在日のネパールの人達から子ども用車いすの切実な寄贈要請を受けておりました。

しかし、現地の確かな受け入れ団体とのつながりが構築できない、インド経由の輸送となるためいつ現地に着するか分からない、他の国に比べて当会の輸送費負担が重いなどのさまざまな問題により実現することができませんでした。

何とか実現できないかと模索をしていたところ、JICA（独立行政法人 国際協力機構）ネパール事務所を通じて、現地に派遣されている青年海外協力隊員から当会に車いす寄贈の要請がありましたので、2007年11月にその要請に応えJICAに24台の子ども用車いすと座位保持装置を寄贈いたしました。

寄贈した車いすは、2008年初頭JICAによりネパールに送られ、到着次第、JICAネパール事務所、および青年海外協力隊員から子ども達に贈られます。

ご支援のお願い

車いすを海外の障害のある子ども達に贈るには輸送費や車いす収集費、修理費などの諸経費が1台につき約10000円かかりますので、私達は自分達で必要経費を確保して送っております。

1人でも多くの障害のある子ども達に動く自由の喜びを持っていただくために、皆さまの経済的ご支援をお願いいたします。

振込先 郵便振替 口座記号番号 00130-9-389966
加入者名 海外に子ども用車椅子を送る会
銀行振込 口座番号 多摩信用金庫 昭島支店
普通 3933782
口座名 海外に子ども用車椅子を送る会

■タンザニア連合共和国保健福祉省 78台寄贈

7月31日に横浜港を出港したタンザニア保健福祉省へ寄贈の車いすは9月29日首都ダルエスサラームに到着、10月8日保健福祉省において、保健福祉大臣、伊藤日本大使、保健省幹部、全国身障者協会会長、養護施設代表者、身障者の子ども達など約100人が出席して贈呈式が行われ、当会と事前に協議のうえ決定していた8カ所の小児医療施設に保健福祉省より贈られました。

ムアキウサ保健大臣のスピーチ（要約）

タンザニア政府は多くの分野で日本政府とは長期にわたる協力関係にあります。

かかる協力関係が非政府団体にまで広まりつつあることは両国の人々との関係がより密接になっているという明らかな証明であります。

私は貴会の会員の方々がやっている活動に心から感動を受けました。

また、身体障害の子ども達の団体への支援として適切な受益者に贈呈していただくことについても感動したところです。

タンザニア政府は真剣に福祉の改善を図るために、身障者が自立できる方策の検討を始めました。

この方針にしたがって政府は全国の身体障害者の人数や実態の調査を現在行っています。

身体障害の子どもを支援の対象とすることを主眼としており、このことは早期に子どものときに手を打てば、大人になって障害の度合いが軽減されることから大変重要です。子ども達に代わって厚くお礼を申し上げます。

私の保健福祉省が障害児の早期治療の対応策を確立する計画をまとめつつあるときにこの支援が届きました。

この早期対応策の計画を成功させるにはこのような医療機器が不可欠であり、是非ボランティアの有能な団体である「海外に子ども用車椅子を送る会」が進んでその重要な役割に参加してほしいと心から希望いたします。

この機会にムタンゴ大使をはじめ東京の大使館の有能なスタッフがこのNPOと保健省とのよき橋渡しになっていたいただいたその努力に感謝いたします。

以上簡単ですがご挨拶を申し上げて、喜んで車いすを受け取りたいと思います。

本当にありがとうございました。



会員募集

当会では、毎月第3日曜日に車いす整備例会を開催し海外の子ども達に贈る車いすの修理をしております。整備例会に参加して車いす整備活動をしていただける会員を募集しています。

特別な技術は必要ありません。

整備例会に参加できる方は事務局までご連絡をお願いいたします。

発行責任者	会長	森田 祐和 〒197-0012 東京都福生市加美平3-7-13 TEL 090(7239)7264 E-mail info@kotobukiya.com
	事務局	志茂 和泰 〒196-0022 東京都昭島市中神町3-6-2 TEL 090-9369-4878 E-mail shimo-yu@whi.m-net.ne.jp
	ホームページ	http://www.kurumaisu.ma.cx/